

平成27年度 弘前市総合計画審議会議事概要 (第4回)				
日 時	平成27年10月9日 (金) 10時00分～12時00分			
場 所	弘前市役所 2階 特別会議室	傍聴者	0人	
出席者	委員 (16人)	森会長、村松委員、生島委員、阿部委員、中村委員、島委員、清野委員、成田委員、工藤委員、北村委員、小山内委員、山形委員、山本委員、青山委員、三上委員、名越委員		
	事務局 (6人)	ひろさき未来戦略研究センター副所長、ひろさき未来戦略研究センター総括主幹、ひろさき未来戦略研究センター主査、ひろさき未来戦略研究センター主事		
	その他			
会 議 概 要				
1 開会				
2 議事				
(1) 弘前市経営計画の進捗にかかる二次評価 (案) について				
○主な質疑等の内容は以下のとおり。				
【なりわいづくり】				
①広域圏の観光施策の充実と観光情報発信の強化				
・拡充という方針に異論はないが、通訳体制の整備という問題がある。現時点でどのような計画になっているのか。				
⇒現時点において、観光案内所や観光館での対応は行われていると思うが、それを広めていくというような体制は出来ていない。通訳に関しては、次年度への改訂に結び付けていきたい。				
・世界遺産の白神山地に通訳が配置されていないという現状に非常に驚いた。案内やパンフレットの外国語表記も大事だと思うが、通訳に関しても、並行して取り組んでいかなければならないと実感した。				
・弘前は行政と観光コンベンション協会との関係が良好であり、全国でも珍しいことなので、関係団体とも連携して計画立案に励んでもらいたい。				
②国外への情報発信及び受入環境の整備促進				
・禅林街の空間というのは、外国人にとって非常に魅力的だと思う。禅林街からりんご公園まで観光客を誘導するような具体的な取り組みを市として行って欲しい。				
・全国各地でインバウンドは進められているので、競争が激しいのであれば、違うターゲットを選ぶ、あるいは、現在のアジアからのブームが去ったあと、どこに焦点を絞っていくのかといったことを中長期で考えた方がいいのではないか。				

・電子端末を操作すれば音声ガイドが聞けるというものが、世界中の観光地にあるので、最低限、そういったものを整備するということも考えてみてはどうか。

・街歩きをする観光客が少しずつ増えている。飲食店に対して、街歩きに対する表示・案内の仕方に対する施策も必要。

⇒行政のみならず、事業者とも一緒になって進めていくため、事業者に対するインセンティブも必要ではないかと考えている。

③重点3分野の強化

・人材育成について触れられていないのは、長期的にみると少し問題なのかと思う。重点3分野の強化なのであれば、そのために人材育成を図っていくというような施策間のつながりがあったほうがいいのかと思う。

④魅力ある商業地域の形成

・商業地域の関係については、行政は裏方となり、民間が主体として取り組んでいくもの。

⑤雇用確保と就労支援

・女性の就労については、就労を阻害する様々なケースが想定される。そこをしっかりと分析できないと支援の対象から漏れていってしまい、働きたいけど就業できない、ということになる。

⇒様々なケースが想定されるので、それぞれに対応できる施策を考えていきたい。

・現状として、働きたい人は多くいるが、企業側とのミスマッチが課題。求職者、企業それぞれのニーズを調査するためには、データが必要であり、行政にはデータの分析と公開を進めていって欲しい。

・昨年の審議会でも同様の話があったが、市としてその種のデータを持っているけど出さないのか。あるいは、そもそもデータ自体がないのか。

⇒国の基幹統計にしろ、市で行ったアンケートにしろ、基本的には公開している。おそらく、民間で求めているデータがそれでは満たされていないということだと思う。また、地元就職の推進については、商工分野が中心となりこれから進めていくが、まず、企業側、学生側双方のニーズを調査する。それをもとに、どういう支援が必要なのか検討する取り組みを始めていこうとしており、調査結果が出れば公開する。

・ライフステージに合った働き方というものがあるので、働き方のニーズを把握し、企業側へワークシェアリングなどの働き方への理解を高めていくことも重要。

・行政で行うアンケートなどは数字で出てくるものがほとんどだと思うが、量的なデータの他に、生活実態などの質的なデータの収集も必要なのではないか。

【経営計画の全体について】

- ・行政の縦割りで、この経営計画をやっていくのは出来ないのではないかと。審議会での議論を通じて、横のつながりが必要なのははっきりしているので、その姿勢を明確に打ち出してやっていくべきではないか。
- ・経営計画を縦割りの組織の中でやっても効果的ではない。弘前だけを考えるのではなく、順応した対応をし得るような構想、実践が求められているのではないかと。

(2) 経営計画改訂方針（案）について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

【弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略】

- ・弘前版 CCRC について、考えを否定するものではないが、介護の現場は逼迫しており、決して充実している訳ではない。また、首都圏からシニア層を呼び込むということは、10年後には介護認定率が上がるということを念頭に置かなければならない。
- ・総合戦略は、地域経済の維持を目的としていると思うが、弘前は維持できたとしても広域連合エリアが衰退すれば弘前もそれに引きずられてしまう。弘前の生産性を上げていくため、弘前だけに捉われず、広い視点で考え、取り組んでいって欲しい。

⇒総合戦略策定の基本方針に、定住自立圏の自治体との連携した取り組みを進めていくことを位置づけているので、弘前だけでなく連携して取り組んでいきたいと考えている。

- ・経営計画と総合戦略の関係について、総合戦略が基本的な考え、経営計画が具体的な施策という考え方なのか。

⇒総合戦略は考え方だけでなく施策も位置づけられている。総合戦略で位置づけられている施策は、基本的には計画の施策が位置づけられているが、総合戦略で新たに位置づけられた施策については、経営計画においても施策に位置づけて一体的に運用していく。